

[JPACP2025-016] 東北心理学会第 78 回大会・日本心理学会認定心理士の会共催
特別講演会（8/30-31）

If you are unable to see this message, click the URL below.

<https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2025/07/JPACP2025-016.pdf>

公益社団法人日本心理学会 認定心理士 各位

◆-----◆
東北心理学会第 78 回大会・
公益社団法人日本心理学会認定心理士の会共催
特別講演会

https://psych.or.jp/authorization/250830_tohoku/
◆-----◆

東北心理学会第 78 回大会・
公益社団法人日本心理学会認定心理士の会共催
特別講演会

日時：

・2025 年 8 月 30 日（土） 15：00—16：30（開場 14：00）

「人々の孤立と心のケア 中長期の災害支援の経験からの学び」

・2025 年 8 月 31 日（日） 13：00—14：30（開場 12：00）

「ゲーム依存の理解～目指せ リア充！ゲームも現実も楽しもう～」

会場：医療創生大学 いわきキャンパス AV 大講義室

<https://www.isu.ac.jp/access/map.html>

・「人々の孤立と心のケア 中長期の災害支援の経験からの学び」

https://psych.or.jp/authorization/250830_tohoku/

日時：2025 年 8 月 30 日（土）15:00—16:30（開場 14:00）

講演者：

米倉 一磨氏（NP0 法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会）

概要：

災害における孤立への支援は、どんな支援者もよく理解し実践できなければなりません。災害直後は突然の喪失体験などで動揺し、助言や医療につなぐ必要のある住民が多くいました。災害が中長期に入り、状況が複雑化し、特に障害者や高齢者、未治療の精神疾患、ひきこもりなど、人を信用し頼ることが苦手な住民は、支援が困難な住民となります。大規模な避難を伴う原発事故や大規模災害は、元々支援が困難な、SOS を発信できないまたは、発信することをためらう住民をより表面化させるのです。このように少子高齢化を迎え支援者不足に陥る日本は、災害に関わらず孤立の支援を深く考える必要があると言えます。

・「ゲーム依存の理解～目指せ リア充！ゲームも現実も楽しもう～」

https://psych.or.jp/authorization/250830_tohoku/

日時：2025 年 8 月 31 日（日）13:00—14:30（開場 12:00）

大越 拓郎氏（独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター）

深夜までゲームに夢中になっているので朝起きられず学校へ行くことができない、常にゲーム機を手にしており家族の会話が少なくなった、親のお金を勝手に使ってゲームに課金する、注意をしてもやめられないどころか反抗されてケンカになってしまう…。

子どもたちのゲーム・インターネットとの関わり方にご家族も学校の先生も頭を悩ませることが増えているようです。「ゲームが問題なのだから、ゲームを取り上げればいい」という単純な問題ではありません。ゲームを取り上げる前に一度立ち止まって考えてみたいと思います。子どもたちはゲームやインターネットの世界に何を求めているのでしょうか？そして、私たち大人ができることは何でしょうか？

*参加費：無料

tpa78@isu.ac.jp

(新刊連動講座) <https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai-book/>

<https://psych.or.jp/authorization/mailservice/>

<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai02/>

(連絡先, 所属機関, 学歴等)は, メール (jpanintei@psych.or.jp)でお知らせください。

<https://psych.or.jp/contact/>